

井上一郎先生の記念号に寄せて

経営学部長 教授 具 承 桓

井上一郎先生は、2016年3月末をもって、京都産業大学をご定年で退職されました。先生が本学に着任なされたのは、1991年4月です。本学部に着任後、26年間、本学経営学部において教育と研究だけではなく、様々な大学機構の役職を通じて、本学と本学部の発展に大きく寄与されてこられました。その長年の功績により、先生はご退職と同時に京都産業大学から名誉教授の称号を授与されました。それを記念して本号を発行させていただくことになりました。われわれ関係者一同は大きな喜びを感じているところでございます。本来は、先生の退職1年以内には刊行すべきところでしたが、大学や学部改革によって遅れてしまい、本日になってしまったことを心より深くお詫び申し上げます。

では、まず、先生のご経歴を簡単に紹介させていただきます。

井上先生は、京都大学理学部物理学科卒業後（1969年）、同年に米国のHawaii大学大学院 およびMIT大学院物理学科に留学、その後、ドイツ国立マックス・プランク研究所に留学を経て、精力的に先進的な研究に取り組みました。帰国後、当時の日本電気（株）（現、NEC）に入社し、同社中央研究所にて情報システムに関する研究に従事しました。日本電気（株）から本学に着任した1991年より、本学と縁を結ぶことになりました。

着任後、先生は企業の一線でのご経験などを活かすべく教鞭を取られました。先生が教鞭をとられた時期は、まさしく情報通信技術（ICT）の本格的な幕上げ期でした。先生の授業は日本の先端企業の知識と経験を未来の背負う学生に惜しむことなく伝承される時間だったのです。というのも、先生の着任後、世界はインターネットの商業化、マイクロソフトのWindows 3.1, Windows 95の発売などもあり、大学においても「情報技術」が最重要テーマとなったからです。当時、本学部はメジャー制を運用していましたが、先生は「情報メジャー」を中心に、最先端の情報システムや生産組織における情報技術の活用、そのための組織作りと管理などについて教えられました。現場と学問を橋わりながらの迫力のある話と、なおかつ独自性のあふれた講義は、学生に大いに影響を当えました。

先生は、本学で25年を超えて教鞭をとられましたが、多くのゼミ生を輩出し、社会に大いに貢献する弟子を育てられました。先生のゼミはいつも活気あふれるゼミであり、学生から人気があったことを思い出します。新米だった小職にとって非常に印象深く覚えています。現実の社会や社会進出を意識し、実践的な学びを強調するゼミだったこと、大変優秀で志の高い学生が集まるゼミだったこと、長い時間をかけて2, 3, 4年生が共同で議論を交わしながら切磋琢磨するゼミナールだっ

たことを覚えています。こうした熱い教育の背後には、教育に対する志だけではなく、企業現場の動きに対する鋭い洞察力と、知恵の産室としての大学の役割を見落とすことなく、高いレベルの持続的な研究と業績が支えてきていたと推測します。

先生は、平成5年(1993年)3月、京都大学より博士(工学)を取得されました。学位論文『Production Planning/ Decision Support for Flexible Production (フレキシブル生産のための生産計画/意思決定支援に関する研究)』を筆頭に、ご退職まで、著書9編、学術論文50編、その他(論説や解説、調査報告書など)23編、国際学会を含めて多くの関連学会で、発表100編を超える数々の業績を残しました。とりわけ、生産工程における情報技術の活用とその効果、そのための組織の取り組み、思考法などに関する研究を精力的に進められました。「システム思考」を重視した数々の業績は、今でも大いに後進の参考になっているに違いありません。こうした功績が認められ、日本経営工学会学会賞(平成8年、平成22年)、日本機械学会FA部門優秀講演論文表彰を受賞されました。

教学におかれましても、本学に大きな貢献をされました。現在の教学センターの前の組織である教学部部長をはじめ、大学基準協会大学評価委員会の委員などを歴任し、教育制度の整備に携わりました。大学にとって大変革の時代だった時期に、GPA制度の導入、学部におけるゼミの2年次開始など、現在の本学部の教学体制の基盤形成に大きな貢献を残されました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、井上先生、これまで大変お疲れ様でした。小職を含め、ファカルティ一同感謝申し上げます。また、さらなる発展を目指し、努力して参りますので、応援の方、よろしくお願いします。これからもますますお元気で活躍されることを心より祈念いたします。神山の緑が懐かしくなれば、是非あそびに来て下さい。教職員、学生一同、心よりお待ちしております。